

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成30年12月21日（金） 18時20分～20時30分

2. 開催場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス研究棟会議室

3. 関係団体等：芝浦工業大学（共催）

4. 役割

ファシリテータ：遠藤薫（学習院大学教授）

大倉典子（芝浦工業大学教授）

スピーカー：永井正夫（日本自動車研究所 代表理事・研究所長）

廣瀬敏也（芝浦工業大学准教授）

挨拶：水田剛（文部科学省 科学技術・学術政策局研究開発基盤課研究基盤整備係長）

5. 概要：

はじめに、文部科学省の水田剛氏より「自動運転は現在、社会的にも関心が高く、国としても推進していきたい。学术界と産業界、科学技術と社会のニーズを汲みながら取り組んでほしい」との挨拶があった。最初に永井正夫氏（日本自動車研究所 代表理事・研究所長）から、自動運転の技術開発の歴史の紹介から、自動運転の導入によって解決できる課題のほか、実現化に向けて残る課題など、自動運転技術の現状と展望について分かりやすく話題提供いただいた。次に登壇した廣瀬敏也准教授（芝浦工業大学）は、国連の自動車の安全基準の制定に関わる委員会で活動されており、ブレーキやハンドリングなどにおける自動運転の安全基準についての国際的な議論を紹介いただいた。また「自動運転から手動運転への切り替え時におけるドライバーの姿勢が運転特性に及ぼす影響」の研究についても紹介された。遠藤 薫教授（学習院大学法学部）からは、技術的側面ではなく社会学的なアプローチからの話があり、アンケート調査を解析した結果から自動運転の導入のあり方について問題提起がなされた。会場も交えたディスカッションでは、大倉典子教授（芝浦工業大学情報工学科）も加わり、安全性の確保、コネクテッドカーとの関連、人との調和など、これからの自動運転技術のあり方について活発な議論が行われた。最後に永井氏から、「自動運転技術の研究を積極的にやってほしい」と若い研究者にメッセージが送られ、盛会のうちに終了した。参加者は、学生、教員、会社員、大使館員など多彩であった。

6. 参加人数：

講演者等：5名

その他の参加者：41名